



ニュースリリース

平成24年 3月15日
千葉大学 産学連携・知的財産機構

千葉大学「優秀発明賞」4件を表彰

平成24年3月15日（木）

本学では創出された学術研究成果をもとに毎年多くの特許出願を行っています。この出願特許を多くの企業で活用していただくために広く社会に公開し、新産業創生や新技術開発のお役に立ちたいと考えています。そこで、特許出願の中から特に優れた発明に対して平成23年度千葉大学「優秀発明賞」を贈呈し、表彰しました。千葉大学の単願および共願の特許出願を対象として合計115件の中から優秀発明を4件選出いたしました。表彰式は平成24年3月15日（木）千葉大学学長室にて執り行い、学長から表彰状と盾が贈呈されました。

受賞者

【エンジニアリング分野】

① 発明：「外部共振器レーザ」

大学院理学研究科 室 清文教授 ほか

レーザダイオードと回折格子で共振器を構成した出力波長が可変な外部共振器レーザを発明しました。物質の構造や化学現象の解析の分野で有用であり、完成度が高い発明です。

② 発明：「表示装置」

大学院融合科学研究科 中村 一希助教 ほか

暗所および明所の両方で表示が可能な発光・反射両表示方式を実現した「デュアルモードディスプレイ素子」の発明です。良好な視認性と省エネルギーを両立する表示素子となる可能性があり注目を浴びています。

【医薬・バイオ、園芸分野】

③ 発明：「尿中に存在する短鎖核酸を指標とした尿路上皮癌早期診断法」

大学院医学研究院 関 直彦准教授 ほか

尿路上皮癌の早期診断として microRNA による検出方法を発明しました。血尿の発病に至る前の、または癌の確定診断としての診断薬として期待されています。

④ 発明：「乳酸菌および抗原物質を含み、口腔内に投与されることを特徴とする抗アレルギー剤」

大学院医学研究院 稲嶺 絢子特任研究員 ほか

スギ花粉症患者に対してスギ花粉標準液を用いた「舌下減感作療法」がある。本発明は抗原のほかに乳酸菌を用いるもので、新しいメカニズムに基づき、その効果も単純な舌下減感作療法に比べると高いことが認められている。